

2022年度 インシデント・アクシデント一括公表

1 インシデント

レベル	件数	説明
レベル 0 a	2641件 66.60%	誤った行為が発生したが、患者に実施される前に発見された場合 仮に実施されていても患者への影響は小さかった(処置不要)と考えられる事例
レベル 0 b	418件 10.60%	誤った行為が発生したが、患者に実施される前に発見された場合 仮に実施されていた場合、身体への影響は大きい(生命に影響しうる)と考えられる事例
レベル 1	787件 19.80%	誤った行為が実施されたが患者への影響が認められなかった事例(例：薬の与薬時間が遅れた等)
レベル 2	101件 2.60%	誤った行為が実施されたが、処置や治療は行なわなかった事例(例：転倒で打撲した箇所のレントゲン検査を行った等)
レベル 3 a	15件 0.30%	簡単な処置や治療(皮膚の縫合、消毒、湿布、鎮静剤投与等の軽微なもの)が必要になった事例

2 アクシデント

レベル	件数	事例概要	
レベル 3 b	3件 0.10%	○濃厚な処置や治療を要した事例(バイタルサインの高度変化・人工呼吸器装着・手術・入院日数の延長・外来患者の入院等)	
		(事例の概要)	(再発防止の取り組み)
		・小児麻痺既往のある患者が転倒し、腸骨稜に骨折が発生。	・スタッフ同士の情報共有と歩行時の見守りを行う
		・トイレ内で転倒し腰椎圧迫骨折が発生。	・トイレ内でのナースコールの使用について説明を行う
		・窒息の対応時に、酸素流量計（新規採用）が押し込まれておらず酸素が投与されなかった	・新規採用の医療機器が導入されたときには、説明会を行う。
レベル 4 a	0件	○永続的な障害や後遺症が残ったが、A D L を害する機能障害や美容上の問題は伴わない事例 ・なし	
レベル 4 b	0件	○永続的な障害や後遺症が残り、A D L を害する機能障害や美容上の問題を伴う事例 ・なし	
レベル 5	0件	○行った行為が死因となった事例(原疾患の自然経過によるものを除く) ・なし	
計	3965件 100%		